

今さら聞けない!! ～老老介護～?

現在、日本は5人に1人が高齢者、総人口に占める65歳以上の割合が2割を超える超高齢社会に突入しています。高齢期は今や誰もが迎えると言ってよい時代となっており、介護はきわめて身近な問題となり、中でも少子高齢化の進む現在にあって、年老いた人自身が老親など家族の介護をしなければならないという問題が起きています。今回は「老老介護」について、見ていきましょう。

●老老介護とは

要介護者と介護者がともに高齢者で、老人が老人を介護せざる得ない状況が「老老介護」です。一般的に中高齢の夫婦が互いの介護すること高齢化した子どもがより高齢化した親を介護する状況などが挙げられます。医療の進歩による高齢化や出生率低下による少子化の進行、核家族化が進み高齢者のご夫婦のみの世帯数が増えたことなど様々な要因が老老介護の原因となっています。



●老老介護の現状

要介護者等と同居している主な介護者の年齢についてみると、男性では65.8%、女性では55.8%が60歳以上であり、「老老介護」のケースが相当数存在しています。老老介護の問題は、国や地方自治体で多くの支援や対策が講じられるようになり、老老介護の問題が懸念され、最近ではテレビや新聞などでもクローズアップされるようになりました。しかし、介護者の事情が考慮されにくい介護認定や、自己負担の重さなどの問題がある介護サービスなど実情とのずれが指摘されています。また、介護する側に対する支援や対策についてもほとんどされていないのが実情です。

●老老介護の問題点

老老介護の問題点は、介護する側の負担があまりにも大きいことです。介護で腰を痛めるといふことや介護する側も疲れ果てて、結局共倒れになってしまうような事態も起こっています。介護負担にあえぎ、精神的に参ってしまったりうつ状態になったりすることも少なく、介護福祉制度も高齢者には分かりにくいことから、医療や福祉サービスを利用することに抵抗感があつたり、世間体を気にしたりして、SOSを発信できない人がいることも問題点の一つでしょう。(右図参照⇒)

●老老介護の対策

残念ながら、老老介護問題の抜本的な解決はまだ無いに等しく、介護保険制度の導入後も長年に渡る介護の末に痛ましい事件が起こっています。政治や自治体、ボランティアなど他人任せではなく、将来的に老老介護の問題に直面することを前提にそれぞれが対策を考える必要があるのではないのでしょうか。また、常に健康的に生活することをもっと積極的に考え、病気や認知症を寄せ付けない環境や体力作りが不可欠です。また、近所づきあいや人づきあいが希薄になったといわれる現代ですが、家族の繋がりはもちろん、地域の人たちとの交流や気兼ねない友人など、自分たちの状況、不安など気軽に相談できる相手が身近にいる環境が求められているのではないのでしょうか。

75歳以上の高齢者の医療費を全額負担など独自の老老介護対策を推進している地方自治体も出てきました。今後高齢者が年々増加するなか、介護保険がより良いものへと見直され、誰もが安心して老後を迎えられる社会へ変わっていくことが望まれます。



高齢者と養護者(家族)の思い *複数回答

